

いるので壁が汚れたりするわけですよ。そうすると、もうそれは住んでる人が責任を持って自分のお金を出して改装するというのが義務づけられています。そういうのも契約書に書かれている場合が多いのです。

○西議員 社会福祉住宅というのは、カーフリータイプ以外にもあるわけですよ。とすると、そのタイプを選ばずにカーフリーを選ぶというのはなぜなのでしょう。それは、単に子どもにとって車がないからですか。安全以外の理由ってありますか。

○説明者 まず、大きな1つとしては、ほかにも社会福祉住宅があるにもかかわらずここを選ぶということは、やっぱりイデオロギーというか、そういう環境に関するそういう関心が高い人も多いということです。単に、社会福祉住宅ですから、値段的にはどこも同じなので、車を持っていても、社会福祉住宅というのがありますし、でもここに住むというのは、そういう社会福祉住宅というだけではなく、車を持たない生活というものにすごく関心を持っている人も住むということです。

車を持たないという理由は大体2つありまして、1つは、もちろん収入不足で、それでどっちにしても、まちの中心地にあるので車は要らないという、そういうふうに関心主義的に考えている人たちですね。それが大体の、ほとんど車を持たない人の理由というのは、収入がないとか、そういうことなんですけれど、2つ目のグループとしては、やはり環境とか、関心を持っている方で、車がなくても生活できるんだというイデオロギーを持っている人たち、こちらの方が少ないと思うんですけども。

○西議員 そうすると、ほかの社会福祉住宅に車を持たずに、単純に入居するということがなくて、なぜカーフリーなのかというのが、くどくなってますけど、なぜなんだろうなど。車使っていないけど、ほかの社会福祉住宅では車を持たなきゃいけない義務があるわけでもないですよ。そういう意味では、なぜそこに入らずに。

安いからですか、それともスペースが広いからですか、僕は思ってしまうようになります。ここがほかの社会福祉住宅より安いということですか。

○説明者 社会福祉住宅も同じ料金です。

イデオロギーという言い方はちょっと強いかもしれないので、1つは、収入がなくて車がないという人と、2つは、ライフスタイルとして車がなくて生活したいという人たちが住んでいるという2つのグループが住人ですということ。

やはり子ども連れの人に関心が強いです。子どもが安全に遊べる場所ということで、普通の社会福祉住宅じゃなく、こういうカーフリー団地で子どもが安全に遊べるという、そういうのが強いと思います。入居したいという理由です。

○水谷議員 逆にお金がある人でも、カーフリーの考え方、あるいは環境の考え方というもので、団地はここだけじゃなくて、ほかにありますか。

○説明者 ドイツ国内ではたくさんありますが、ミュンスターにあるカーフリー団地というの

は、社会福祉住宅となります。

ここが特別なのは、ドイツのほかのカーフリー団地は、普通のカーフリー団地なんですけど、社会福祉住宅であり、カーフリー団地であるというのは、ドイツでここだけです。

今は、このミュンスターはドイツで唯一の社会福祉住宅であり、カーフリー団地ということを保っているんですけども、やはり今政党が変わってしまったために、経済中心の市政ということでありまして、社会福祉住宅じゃなくなるという可能性、高級アパートになる可能性も将来はあるということです。

そうすると、今ここに住んでいる方たちは、家賃が払えなくなるということで、住めなくなるということで問題になります。

このカーフリー住宅が建つまでに二、三年の計画がありまして、いろいろな話し合いの結果、このカーフリー団地で社会福祉住宅というのが実現したということです。

一番最初の2001年に入った入居者たちは、最初はカーフリー団地にいかなる理由で入られたのかわからないんですけども、このカーフリー団地というものにすごく愛着を感じまして、自分たちの希望で自治会ですね、住民会みたいなものに入って、それも少しずつ月々払うんですけども、活発に、近所つき合いを広げていってます。それはもう自然に育っていったということですね、このカーフリーという環境の中で。

2001年の入居者というのは、どちらかという社会福祉という目的よりは、そのカーフリーというものに魅力を感じて入居した人が多いですね。第二次、第三次に建てられたアパートというのは、余りカーフリーということも関心がなく、安いということで、社会福祉住宅ということで入居したこともありまして、そこまで自治会とかで熱心ではない。単に安いということで入居されております。

○池田議員 ということは人気があるんですか。

○説明者 待っているリストがあるくらいの人気です。皆さん入居したいということで。

やはり最初の入居者たちは、カーフリーということの魅力を感じて入りたいということで入ったらしいんですけど、2番目に入られた人たちは、どちらかという安いから、とにかく安ければいいということで入った人が多いということです。

○池田議員 ちなみに、あなたは最初の入居者なんですか。

○説明者 そうです。

○土師議員 5台の車の奪い合いはないんですか、そのシステムはどうなっていますか。

○説明者 たまになくなったりすることもあるんですが、この周りにはカーシェアリングの駐車場がいっぱいあるので、そこがもう車がなかったら、ほかの駐車場に行くということなんです。

でもほとんど使うことはない。もうまちの中心に近いところに住んでますので、お買い物もすべて徒歩、自転車のできる距離ですし、違う場所に行くとか、引っ越しのお手伝いをす

るということ以外には車を使うことがないということです。

例えば、20キロまちから外れの、田舎の方に住んでいる人たちは通勤とか、車は必要なんですけれども、まちに近い、公共交通の機関が整っている、自転車ですぐにまちに行ける、通勤とかも自転車とかで行きますし、私も1週間または2週間に1回ぐらいしか車は使わない。

第二次段階の建物に入居したという人は、車なく生活したいというわけではなく、車を買うほどのお金がない、たまたまその時期に車がなかったということで、社会福祉住宅というふうに入居された方が多いです。

貧富の差が、だんだん格差社会になってきています。これからは社会福祉住宅というのは大変重要な問題になっていくと思います。

そういう社会福祉住宅でもあり、カーフリー団地であるというコンセプトを理解してもらうために、そういうことをちゃんと前もって説明していくという義務があるということです。

第二次段階で建てられた住宅の入居者の中には、何とこっそりと車を持っている人たちがいます。それを憤慨してるんですけども。カーフリー団地で車を持たないということが入居条件にもかかわらず、車を買って、こっそりと持っている人がいるというのも現状です。

○土師議員 だから、モラルの問題はあるけど、ペナルティーはないわけでしょうか。

○説明者 これはやはりモラルだけの問題で、別に車をこっそり持ってるというのが見つかったからって、すぐに出ていけというふうな、やはり皆さん収入が少なくて、そう簡単に新しい社会福祉住宅を見つけるということもできないと思うので、それで難しい問題になっています。

○土師議員 そういった市営住宅の賃貸に関して、付加価値として車がついてるという発想で、結果として環境にもやさしいと。要は、市の賃貸住宅ですよ、その賃貸住宅の賃貸の募集の方式で、付加価値ですよ、要はその車が持てると、車を持ってなくてもついてるという、付加価値として、おまけですよ。グリコのおまけみたいなもんですけども、結果として、いわゆる環境に配慮した住宅に住んでるというコンセプト。

○説明者 カーシェアリングの車のことですか。

○土師議員 そうです。

○説明者 それは関係ないです。それはカーシェアリング会社がもう個人の会社で、たまたまここは車を持ってはいけない団地であるということに目をつけて、ビジネスということで駐車場をつくってるわけです。だから、全然カーフリーとは関係ないということです。

○土師議員 ということは、コンセプトがあんまり関係ないような気がします。外で持ったらいいのであれば。

○説明者 でも、カーシェアリングするのは、自分の車を持って、やはり環境にやさしいんです。1人の人が1つの車を持ってると、物すごく環境には、それを1つの車を何十人の人

が1日に使うわけですから、その何十人の人が、要するに何十台の車を使わなくても済むということなんです。だから、カーシェアリングのコンセプトというのは、とても環境にいいと思います。

○池田議員 そうすると、カーフリー団地と社会福祉住宅と併用すること、要は一緒になることの意味、個人的な見解でいいんですけど、あると思われませんか。

○説明者 その質問には直接答えてないんですけども、普通のアパートでしたら、1世帯につき1台の車が駐車できるような、駐車場の確保をしなきゃいけないんです。このカーフリーの団地を見てみますと、1世帯につき0.2台の車の駐車場の場所、それも自分たちの車というわけじゃなくて、訪問客のための駐車場だけを用意してるということです。

それでいろいろ問題は起こってくるわけです。第1段階の人は、車がなくて生活したいと入居した人が多くて、第2段階の人は別に車がないと、チョイスではなくて、お金がないから持ってないというだけで、それでいろいろと問題が起こってくるというわけで、カーフリー団地というのと社会福祉団地が何で一緒にあるというのがいいかということ、車はやっぱり持ってないという人は所得が低いというのが実際なんです。バイクやスクーターもだめです。カーフリー団地といいますが、身体障害者の方で、どうしても専用の車が必要という人もいらっしゃいます。その人が4人から5人いまして、その人たちは特別の許可をもらって車を持ってもいいということになっています。だから、本当のカーフリーというわけじゃないです。

入居した当時は車がない方でも、1年後ぐらいになったら、新しい職場ができた、その職場に行くにはどうしても必要だ、そういうことでまた特別な許可証をもらって車を所有するという人もいるということですね。そうすると、また、だんだんカーフリー団地のコンセプトがどんどん難しくなってくるということ、またこの特別許可証ということで、どこまでがいいのか、それが問題だということです。それは本当にどうしようもない場合に特別許可証というふうになっています。

まず自治会でその人が特別許可証というのをもらって車を持つ必要があるかというのを話し合ひまして、その後に大家さんの方に相談するというふうになってるんですけど、またそれもいろいろと、どこまでが特別なのかという問題が起こってきます。

普通の場合はカーフリーということで、車を持たないという契約書にサインして入居したということですから、普通だったら車を持ってるという時点で出ていかないといけないということです。大家さん側としても、車を持ってるとかといって、すぐ簡単に追い出すということは、ちょっと恐れています。それでまた裁判ざたになったりすると面倒くさいということで、見逃しているというような状況が現状です。

問題としましては、そのようなモラルの低い入居者が車を持って生活している、それでも追い出されないということ、ほかのまた近所の人に話します。そうすると、ほかの近所の

人も、カーフリーで車を持ったら追い出されると思ったら、追い出されないで済むんだということで、もし車を買える機会があったら、車を買うというような状況になるので、大家さんがはっきりとそういう問題に取り組んでいかなければならないと思っております。

そのような行動をしっかりと白黒つけて、決着をしない限り、ますますこのカーフリー団地という暮らしから離れていく、将来は離れていく不安もあります。

もちろん、障害者に対する車の特別許可証というのは大切だと思うんですけども、突然仕事場が遠くになって、それで移動という場合は、何年もそれで続けるということは、カーフリー団地に済むという意義がなくなるということで、出ていってもらうような方向に持っていくべきだと思っています。住民会のことなんですけれども、これは押しつけの義務でなくて、希望で住民会に入るんですが25%の入居者がこの住民会に入っています。

○土師議員 住民会は会費は要るんですか。

○説明者 1カ月に3ユーロから10ユーロで、世帯の広さによります。シングルアパートでしたら3ユーロ、大家族だったら10ユーロと。

○土師議員 それは市に納める共益費とはまた別に要るわけですね。

○西議員 前提の確認の質問で恐縮なんですけど、低所得の人しか入れないということですよね。カーフリー宣言をして、一定のお金をもらったから入れるとか、そういうことはないということですね。

○説明者 残念ながら入れないということです。

もちろん低収入ということで入ったんですけど、もちろんまた新しく仕事が見つかって、突然収入がアップしたりしますよね、そうすると追い出されるということはなく、そのまま普通の人よりは高めの金額を払って、もしいたければ、それでも高い普通のアパートと同じ値段になるわけですよね。

○西議員 ただ、入るときは少なくとも基準所得以下でないといけない。

○説明者 そうです。

そのように突然収入がやっぱりアップして、それでもカーフリーに住んでいるという人たちは、モラルを考えてみると、しばらくしたら、ほかの低所得の人に部屋を譲るべきだと思っています。

(カーフリー団地視察)

○説明者 ここからは、もう車が入れない、単車は入れないということになってます。

引っ越しとか、そういう場合は、ちゃんと事前に言ってましたら、かぎをいただいて、引っ越しの車とかは、もちろん入ってくることもできますし、病院や、あとそういう車いすの方のためのタクシーは、このかぎをあけて入ってきます。

訪問者用の駐車場です。友達とか、遠くに住んでる親戚とかですね。

普通のアパートでしたら、先ほども言いましたように1世帯につき1つの駐車場を用意しなきゃいけないということなんですけれども、この訪問者用の駐車場を含めた場合でも1世帯につき0.2の駐車場の場所を確保しているということになります。一番使うのが自転車ということですね、移動の手段として。

8台自転車がここにとめられます。要するに、10世帯ありまして、自転車4台自転車がとめれるスペースがあります。

○中井議員 ありがとうございます。

